

## (2) - 4) ②シークワサーの里山と生き物の共生で地域活性化 (沖縄県大宜味村・やんばる舎)

やんばるの森におけるシークワサーの里山とそこに集まる生きものを結び付けた環境教育やエコツアー、農作物の多様性ブランド化の推進を実施。持続可能な保全活動を通じて地域活性化を行い、やんばるの生物多様性の向上にも寄与している。

### a. 取組の背景と経緯

大宜味村は世界から生物多様性の高さで注目されるやんばる地域に属しており、かつては人が適切に管理・利用する事で里山的な景観を形成していたが、戦後は人の手を離れ深い森に被われ環境の多様性が失われていった。近年、「大宜味つばきの会」などの地域団体が結成され、里の自然の保全・活用活動が開始された。

平成23年度より環境省生物多様性地域連携促進法に基づく大宜味村地域連携保全活動計画の策定作業を進める中で、大宜味村はやんばるでも珍しい石灰岩森を中心とした特異な地域と、これを取り巻くシークワサー畑を中心とした里山の地域によって生物多様性の高い環境が構成されていることが明らかとなった。シークワサー畑はコノハチョウやフタオチョウ、ノグチゲラなど希少な生きものが集まる場所となっている。

こうした動きの中で、環境保全による地域活性化を目指す地域の若手を中心とした「やんばる舎」が結成され、これまでの取り組みを引き継ぎ発展させるべく、里山環境の維持を目的とした環境教育やエコツアーリズムなどの活動を展開している。



写真：やんばるの森と海（沖縄県大宜味村）

### b. 活用方法

#### ■環境教育への活用

シークワサー畑に集まるチョウをテーマに、生物多様性を学ぶ観察会を平成25年度より地域の小学校を対象に開催している。世界自然遺産登録を目指す取組みも進むやんばる地域の一角をなす大宜味村としては、身近な環境について地域の理解促進を図ることが、大変重要な課題となっている。

この観察会を通し、今までチョウに興味のなかった地元の児童が夢中で観察に取り組むようになっていく。尚、児童達は平成25年度の観察結果を国頭地区児童・生徒科学賞作品展に出品し銅賞を受賞した。

#### ■地域イベントや交流のテーマとして利用

里山の文化と生きものを楽しめるツアーを地域住民協力の元開催している。シークワサーの里山の自然を活用するイベントでは、農家や地域住民にとって直接的なメリットがあれば、場を提供する意欲につながり、さらにツーリズムの行われる地域の活性化にも明確に結びついていく。

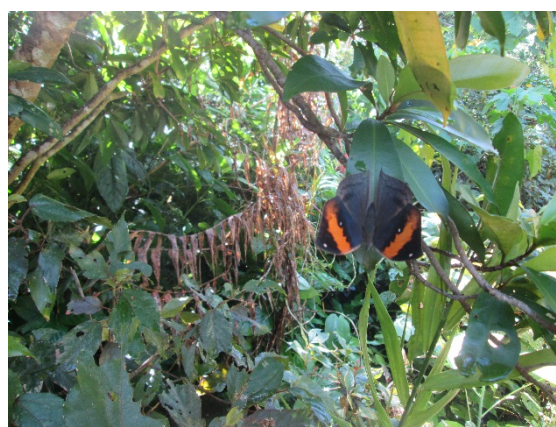
今後、地域住民と共にプログラムを創出・実施し、村外の人々に発信して参加を促す事で、大宜味村の行う保全活動へ興味を抱かせ、生物多様性へ関心を広く広げられるようにする。

#### ■地域ブランドへの活用

大宜味村の里山を形成するシークワサー畑の保全を目的に、高い生物多様性の場所で育まれる大宜味産シークワサーを生物多様性ブランドとして確立する試みをはじめている。



(写真) 観察会の様子



(写真) 児童が撮影したコノハチョウ

### c. 保全活動と野生生物への効果

シークワサー栽培を通じた里山環境の保護と、環境教育・エコツーリズムへの活用を通じた地域活性化を両立させることで、持続可能な保全活動が期待されている。また活動を通じて栽培に関わる人々が、シークワサー畑の背景にある健全な生態系の在り方に目を向ける事で、ノグチゲラやコノハチョウ、フタオチョウ、ケナガネズミなどやんばるを代表する生きもの生育環境が守られていくことが期待される。